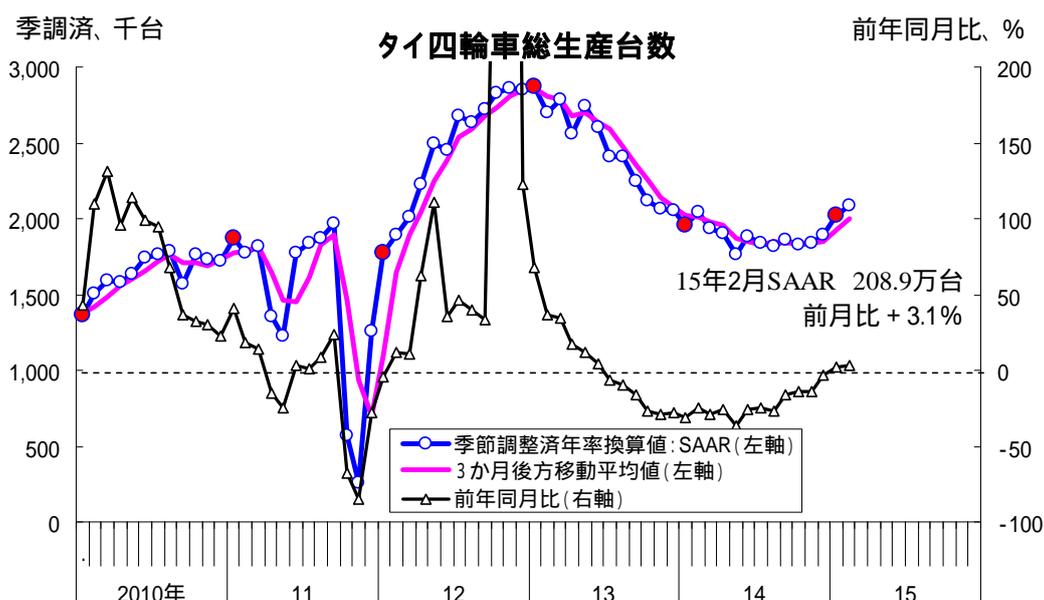


タイ自動車市場月次統計（2015年2月）
 内需低迷が続くが、堅調な輸出拡大が生産の回復を牽引

自動車生産台数の季節調整値は4か月連続の増加

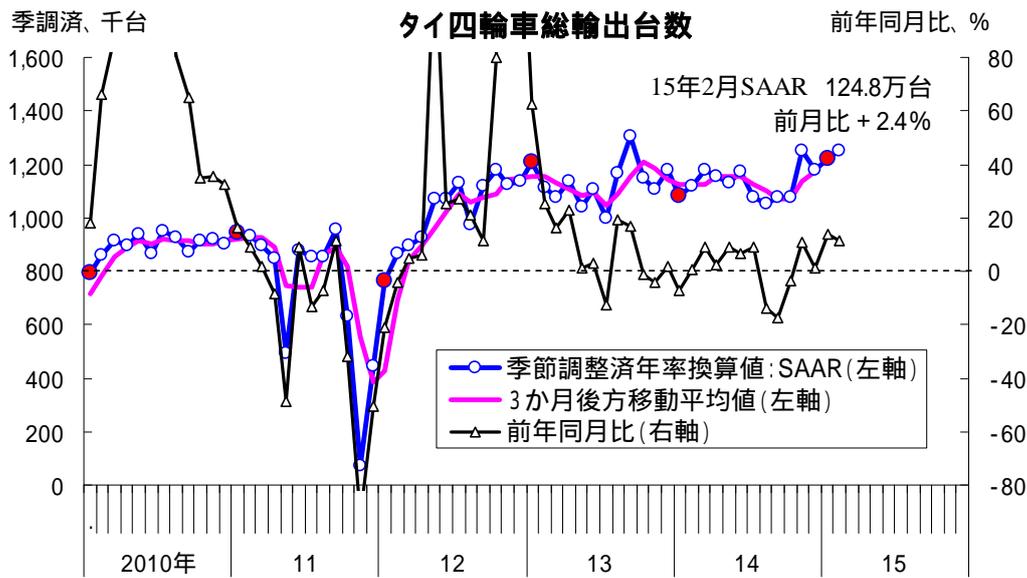
- ・ 3月24日にタイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2015年2月の四輪車生産台数は前年同月比2.8%増の17.4万台と、19か月ぶりに前年を上回った1月に続いて前年同月比プラスとなった。季節調整済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)も前月比3.1%増の208.9万台と、4か月連続の増加となり、タイ自動車産業の回復基調が続いている（図表1）。
- ・ 2月の四輪車総輸出台数は前年同月比11.3%増と4か月連続の前年同月超えとなり、SAARは前月比2.4%増の124.8万台と2か月連続で増加した（図表2）。
- ・ タイ現地企業を取材したところ、いすゞ自動車や三菱自動車、日産自動車のピックアップトラックに加え、マツダ「Mazda 2（日本のデミオ）」やホンダ「HR-V（同ヴェゼル）」、スズキ「Celerio」といった乗用車モデルの輸出が堅調に拡大しているとのこと。小型商用車（LCV）と乗用車が両輪となって足元の輸出回復を下支えする状況が続いている。
- ・ もっとも、国内販売は依然として低調で、底ばいで推移している。2月の総販売台数は前年同月比10.8%減と22か月連続で前年を割り込み、SAARは前月比0.7%増の83.4万台となった（図表3）。政府はコメ農家向け補助金支給策を実施しているが、農民が多い地方部での自動車販売は低迷したままである。農産品価格の下落や家計債務問題が地方部での自動車購買の足かせとなっており、乗用車の国内販売に関しては、早期の回復は見込みがたい状況である。

図表1 自動車生産台数のSAARは4か月連続で増加



注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2： SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所： Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数のSAARは2か月連続の増加

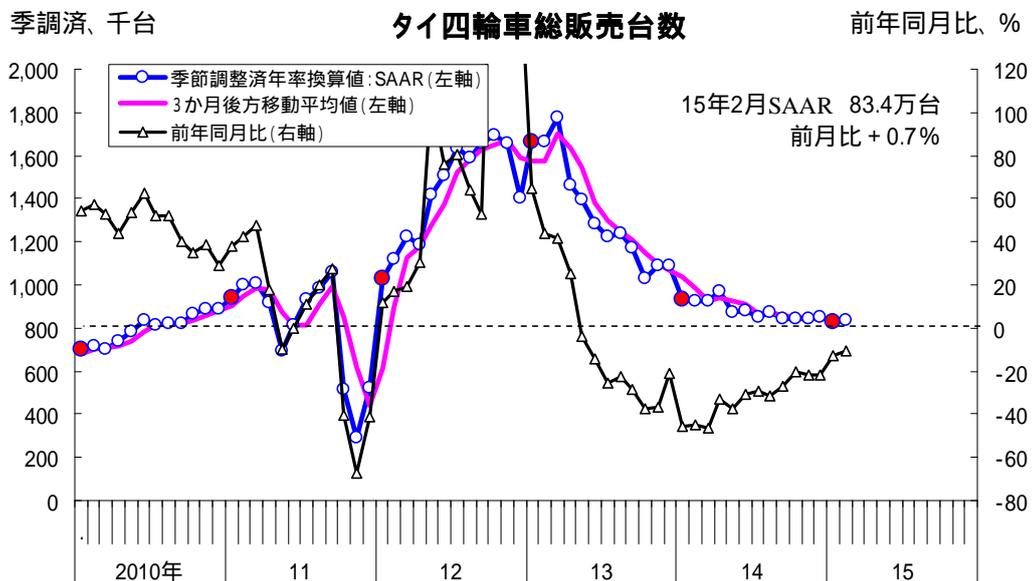


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は低迷が続いている



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

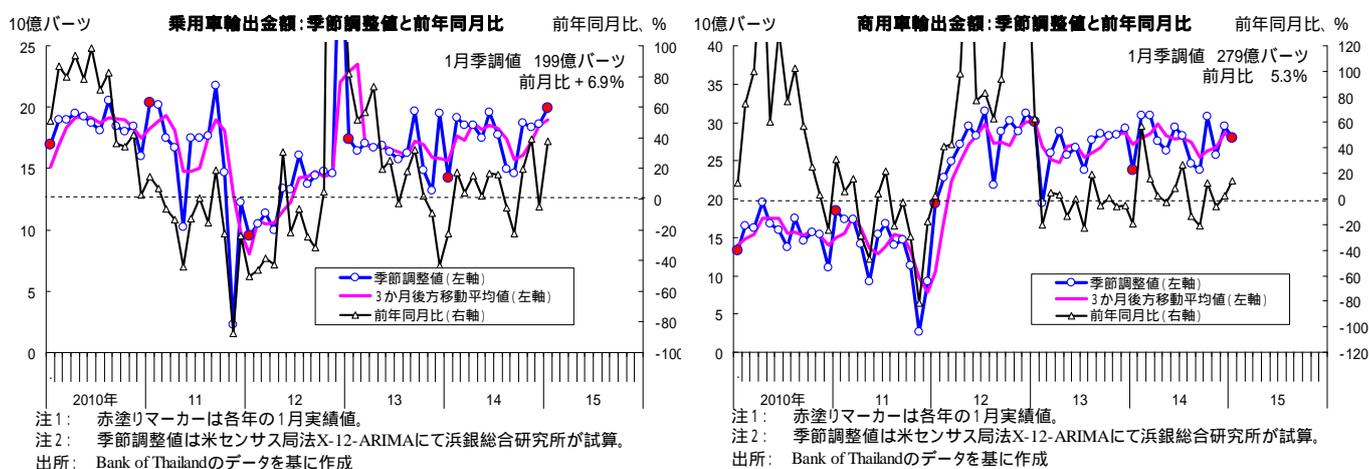
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

乗用車とピックアップトラックの輸出が共に増加基調

- ・ 図表4では、タイ中央銀行が公表している乗用車と商用車（主にピックアップトラック）の輸出金額の推移を表している。直近で入手可能なデータは同行が2月末に発表した15年1月の貿易統計となるが、乗用車もピックアップトラックも、SAARの3か月後方移動平均値でトレンドをみると、昨年10月から増加基調が続いている。
- ・ 乗用車輸出の増加の背景には、前述したように、マツダやホンダ、スズキがタイ工場で生産するグローバルモデルの輸出が拡大していることが挙げられる。ピックアップトラックでは、いすゞ自動車の海外拡販の進展と、日産自動車の新型モデルの輸出拡大が背景にあると考える。
- ・ ピックアップトラックの1月の輸出金額（SAAR）は前月比で減少した。しかし、三菱自動車同社タイ工場で生産する新型ピックアップトラック「トライトン」の輸出が2月9日に開始されたこともあり、2月の輸出金額は再び増加した可能性が高い。実際、24日に公表された2月の総輸出台数が前月比で増加したことの背景には、「トライトン」の輸出開始が大きく寄与したと推測される（図表2）。
- ・ 業界関係者への取材情報を基にすると、トヨタ自動車は新型世界戦略車IMVのピックアップトラック「ハイラックス VIGO」を5月に販売開始すると予想される。同モデルは、タイ国内向けに加え、グローバル基幹車種として海外市場で積極販売されるモデルである。同モデルの登場もあって、輸出の増加トレンドは今後も継続すると考える。

図表4 乗用車と商用車の輸出が共に増加基調

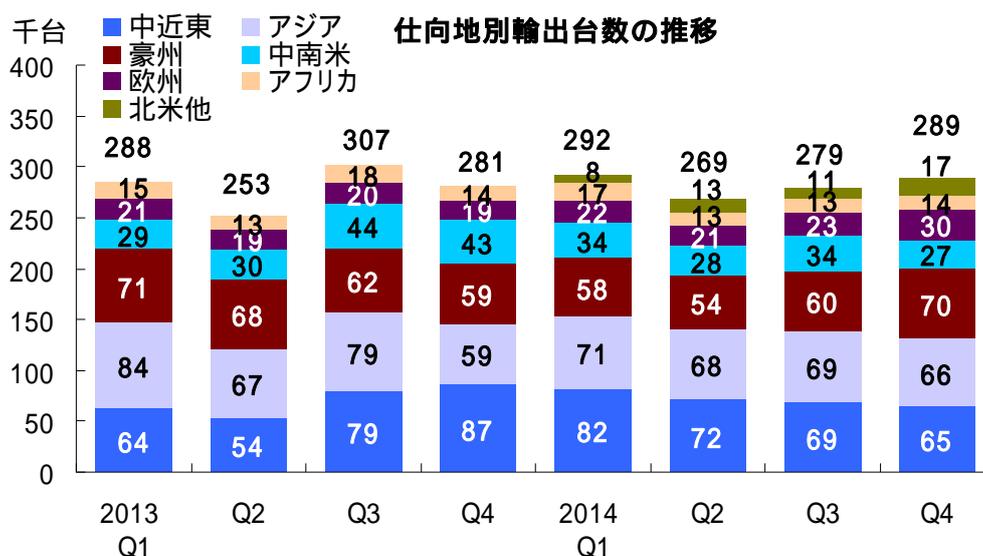


自動車輸出台数は今後も増加し続ける可能性が高い

- ・ 長い目で見ても、自動車輸出は向こう1～2年は拡大していく可能性が高いと考える。2017年中に完成車工場が消滅する豪州向けの輸出が増加することと、中近東向けを中心に新型ピックアップトラックの世界拡販が進むためである。
- ・ タイ工業連盟のホームページでは仕向地別の輸出台数の推移を確認することができない。しかし、同連盟に加盟する現地部品企業 Somboon Advance Technology PCL.（SAT社）が、2月にアナリスト・機関投資家向けに公表した決算説明資料には詳細数値が掲載されている（同資料は同社のホームページにも掲載されている）。図表5は同資料に掲載されている、仕向地別輸出台数の過去2年間の台数推移を示している。

- ・直近の1年間をみると、ASEAN 域内でのマクロ経済成長の鈍化を背景に、アジア市場向けの四輪車輸出は減少基調にある。一方、豪州向けの四輪車輸出は新型モデルの積極拡販で14年第3四半期から拡大し、欧州向けの輸出も同四半期から増加しており、結果として、輸出台数全体としては回復トレンドが続いている。なお、中近東向けの輸出台数が前年同月比でみて第3及び第4四半期に減速しているが、これは一部自動車メーカーが同地域向けの輸出を停止しているためであり、業界関係者への取材情報によると、いずれこの輸出停止は解除される見通しである。
- ・今後の見通しとしては、まず、豪州向けの四輪車輸出は拡大し続けると考えられる。前述のように豪州内の自動車生産工場が17年中に消滅することに加え、複数の自動車メーカーが同国市場向けに低燃費なグローバル車を積極的に輸出販売していくからである。実際、豪州向け乗用車の積極拡販は昨年未から進んでいる。そして、中近東向けは一部メーカーの輸出停止の解除に加え、相次ぐ新型ピックアップトラックの投入が後押しするかたちで、輸出は再び拡大局面に入ると予想する。需要サイドでは、サウジアラビアを中心に積極的な公共投資が続く見通しであり、高水準なインフラ及び建設関連投資が続く中では、ピックアップトラックの販売も堅調に推移しよう。
- ・マクロ経済成長の鈍化はリスク要因として今後も要注意となるが、以上のように、南半球を中心にタイ生産車両の需要が今後高まっていく中で、輸出販売は増加し続けると考える。

図表5 四輪車輸出は2014年第3四半期から回復基調



出所：Somboon Advance Technology PCLのHP公表資料

担当：調査部 産業調査室 深尾三四郎

TEL 045-225-2375

E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜臨総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。